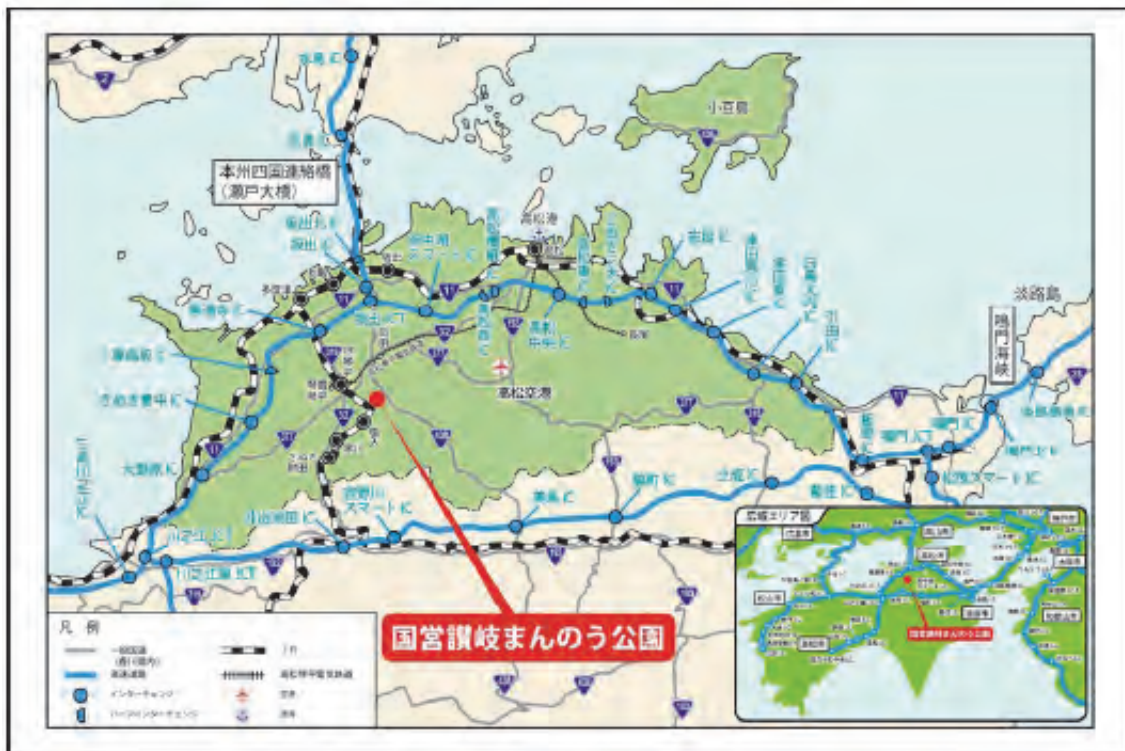


⑫ 国営讃岐まんのう公園

国営讃岐まんのう公園は、香川県仲多度郡まんのう町に位置し、我が国最大級のため池である「満濃池」に接する、四国で唯一の国営公園。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	香川県仲多度郡まんのう町		
■面積	計画面積	350ha	
	開園面積	350ha	

■広域図



■年表

S61(1986).8.29	都市計画決定
S62(1987).10	工事着手
H10(1998).4.18	中央広場ゾーン、宿泊ゾーン等の第一期開園(供用面積約 80ha)
H12(2000).4.30	北口園路・総合センターの追加開園(供用面積約 96ha)
H14(2002).4.20	自然生態園の追加開園(供用面積約 111ha)
H17(2005).3.19	湖畔ゾーンの満濃池展望遊歩道の追加開園(供用面積約 112ha)
H18(2006).12.28	湖畔通り線園路の追加開園(供用面積約 114ha)
H20(2008).3.31	湖畔の森開園で湖畔ゾーン一帯の追加開園(供用面積約 154ha)

H20(2008).4.26	健康ゾーンの全天候型多目的運動場(ドラムドーム)・芝生広場の追加開園(供用面積約 158ha)
H23(2011).4.24	果樹園やドッグラン等の健康ゾーン一帯を追加開園(供用面積約 198ha)
H25(2013).4.21	「さぬきの森(供用面積約 152ha)」が追加開園し、全面開園(350ha)

### ■コンセプト

テーマ	人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい
理念	
基本方針	<p>1) 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園</p> <p>2) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を活かした四国らしい公園</p> <p>3) 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の方々も利用できる公園</p> <p>4) 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて豊かな人間形成に役立つ公園</p>

### ■施設

中央広場ゾーン	竜頭の里	エントランス広場	案内所、ビジターセンター、緑と石のヴィスタ、売店・レストラン
		芝生広場	芝生広場、昇竜の滝、サイクリングセンター
		竜の子ひろば	ドラムの家、レストハウス竜の里、遊具(ふわふわドーム、ドラムの泉広場、大型ネット式ジャングルジム、アリ地獄、ロッククライミング等)
		風花の庭、飛竜池・飛竜の花道、竹風庵、木もれびの道、あじさい苑、花竜の道、貸遊具置場、風花の庭、青竜の谷	
環境保全ゾーン	竜頭の森	炭焼き窯、たけのこ園、きのこの森、エックススライダー、メロディ橋、希望の丘展望台、パノラマ展望台、体験学習館	
	湖畔の森	満濃池展望遊歩道	満濃池の景観を楽しみながら散策ができる全長約 400mの木製デッキ。
		池見の丘	満濃池や象頭山を望む大パノラマを楽しめる。
		湖畔の里	昭和 30 年代の里山や里地を間近に見ることができる。
		棚田の湿地、アカマツの尾根、こもれび広場、谷のハツ橋、アカマツ広場、半島広場	
湖畔ゾーン	岬の棧橋	湖面に近い展望デッキから、満濃池の水辺の眺望を楽しめる。	
宿泊ゾーン	ホッ！とステイまんのう	キャビン、トレーラーハウス、キャンピングカーサイト、一般カーサイト、フリーサイト、洗面・シャワー・トイレ棟、炊事棟、オートキャンプ場管理センター	

健康 ゾーン	竜頭の丘	ドラ夢ドーム、ドラ夢広場、ドッグラン、梅の道、健康広場、虫の広場、花巡りの丘、実りの丘、もみじの谷、お花見広場・バーベキューコーナー、多目的広場(グラウンドゴルフ場)、つつじの丘、風に見える丘展望台、総合センター、北案内所
自然活用 ゾーン	自然生態園	自然生態観察園(北の谷、南の台地、南の谷、東の谷、湿地の谷、逆様池)、自然生態展示館、動物舎、井戸体験、駐車場、トイレ、案内所
	さぬきの森	さぬきの森、一般エリア(天の広場、見はらしの山展望台、常磐木の丘、花ふぶきの丘、葉隠れ峠、苔谷)、入退園申請エリア



■園内図



















<入園料>

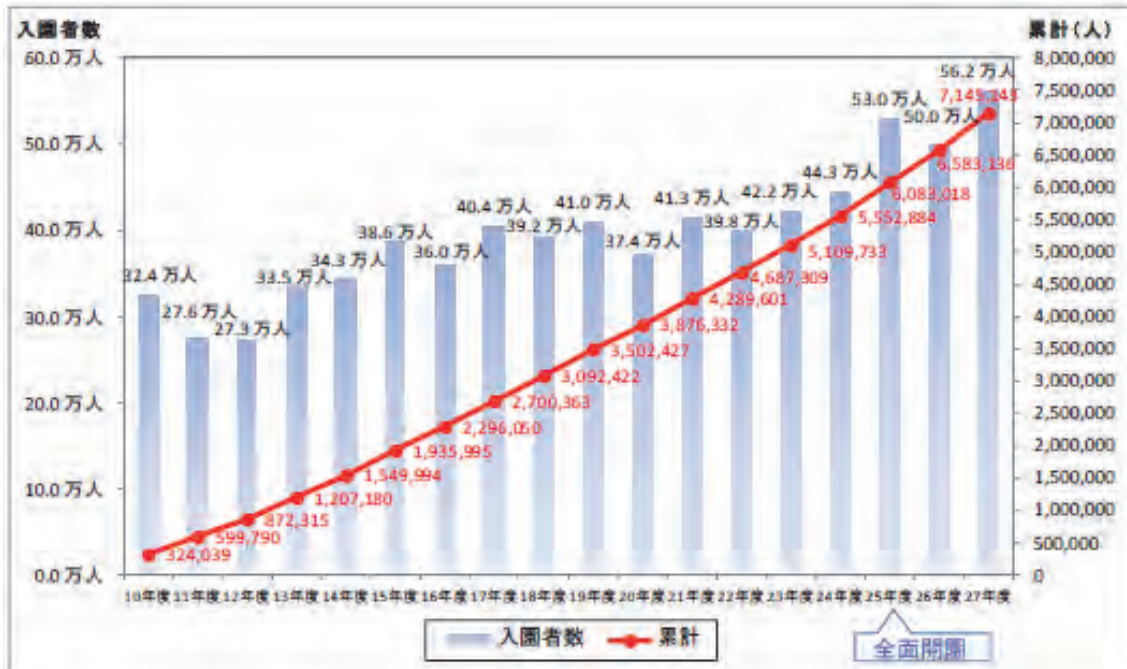
区分	一般	団体	年間 パスポート	駐車場券付 年間パスポート
おとな (15歳以上)	410円	290円	4,100円	5,100円
シルバー (65歳以上)	210円	210円	2,100円	3,100円
こども (小・中学生)	80円	50円	800円	-

< 駐車場 >

	普通車	大型車	二輪車	障がい者用
料金	310 円	1,030 円	100 円	無料
中央駐車場	902 台	18 台	20 台	11 台
北駐車場	260 台	10 台	10 台	10 台
自然生態園	17 台	-	-	2 台
お花見広場	24 台	-	-	3 台

■ 管理

利用者数	562,000 人 (H27)
マスコミ報道等件数	640 件 (H26)
ホームページのアクセス数	721,566 件 (H26)



< ボランティア >

ボランティア名	内容	登録者数
かりん夢クラブ	日・祝日を中心に開催している各「体験教室」の指導	59 名 (平成 29 年 7 月現在)
まんのう公園インタープリターボランティアの会	・自然生態園やさぬきの森を案内するガイドの企画・実施 ・ネイチャークラフト、自然観察会等のイベントの企画・実施 ・里山教室や田植え、稲刈りなどの里山生活体験の企画・実施	88 名 (平成 29 年 7 月現在)
さぬきの森の会	・草刈や除伐・間伐、枯損木・危険木の除去 ・森林作業に必要となる技能向上についての講習会 ・森林作業上の危険予防に関する勉強会	54 名 (平成 29 年 7 月現在)

	・森を利用したイベント・遊びのための技能向上 ・森の生物観察と保全方法の習得 ・森で採れる食材を使った料理	
ガーデニングクラブ	ガーデニングスクール卒業生の活躍の場として、公園の花や緑に係わる様々な活動を行っている	110名 (平成28年4月現在)
PARK(パーク)ボランティア	花壇・花畑の手入れや除草作業など	—

<H29 重点管理項目>

植物管理

○公園の魅力の向上

- ・公園の大きな魅力の一つである花修景は、多くの人に見頃を体感していただけるよう、開花を見据えて植栽管理する。
- ・自然生態園やさぬきの森等では、近年高まりつつある体験学習への要望に応えるために、自然観察や樹林管理体験等の取組を強化する。

地域連携

①周辺地域等との連携強化

- ・「まんのう町の日」等に代表される地元地域との協働イベントの継続や、相互の情報提供を実施することで、公園周辺の施設や団体との連携強化を図る。
- ・また、近年新たに開催している芸術祭やモーターショー等、地域団体との協力によるイベントを積極的に実施することで、多様な主体との連携強化を図る。

植物管理

○効率的な施設の維持管理

- ・利用状況や施設の重要度等の施設特性を踏まえて、損傷等が発生した後に対策を行う「事後的管理」と、日常点検、定期点検を踏まえながら施設の長寿命化を図る「予防保全的管理」を適切に使い分けることにより、施設の効率的な維持管理を実施する。
- ・また、バリアフリー対応や、多言語化のサイン設置等、利用される全ての人にやさしい公園を目指し、施設のユニバーサルデザインに配慮する。

環境保全

○参加型による四国らしい里山の保全・再生

- ・参加型の公園管理を推進し、さぬきの森や自然生態園では、ボランティアを主体とした、樹木の間伐や植樹等を実施することで、親しみのある里山環境の保全・再生に努める。
- ・また、これらへの参加を通じて、里山の自然と文化を継承していく人材を育成する。
- ・このほか、花の植栽等のボランティアの積極的な参加を通じて、みんなで育て、楽しむ参加型の公園づくりに努める。

### ⑬ 国営越後丘陵公園

国営越後丘陵公園は、近年のレクリエーションニーズの多様化、交流の拡大など広域的レクリエーション需要の増加に対応するために設置された。長岡市の西方に位置し、標高 80～260m の丘陵地帯。市街地から約 13km、関越自動車道出口から約 6km の便利な所に位置している。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	新潟県長岡市		
■面積	計画面積	400ha	
	開園面積	298.4ha	

### ■ 広域図



### ■ 年表

H1(1989)年度	事業着手
H2(1990)年度	都市計画決定(398.6ha)
H3(1991)年度	工事着手
H10(1998)年度	健康ゾーンの一部開園(29ha)(緑の千畳敷、銀河の丘、越の池、イングリッシュガーデン、暖の館、天・地・人のフォリー、駐車場など)
H11(1999)年度	展望台開園(18ha)(ふれあいの森、フォリーの丘、展望台、園路など)
H12(2000)年度	健康ゾーン追加開園(25ha)(駐車場、園路及び樹林地など)
H13(2001)年度	花と緑の館管理棟及び自然探勝路橋の開園(0.3ha)
H14(2002)年度	自然探勝路及び樹林地開園(47ha)
H15(2003)年度	花と緑の館(休憩棟)追加開園(0.3ha)、ばら園開園
H19(2007)年度	里山フィールドミュージアムの一部開園(20ha)(里山ふれあいエリア)

H20(2008)年度	里山フィールドミュージアムの追加開園(9ha)
H21(2009)年度	総合センター開所(1.5ha) 里山フィールドミュージアムの追加開園(5ha)
H24(2012)年度	里山フィールドミュージアムの追加開園(143.3ha)

### ■コンセプト

テーマ	天に学び、地に遊び、人と集う、越の里
理念	変化に富む地形、様々な動物が生息する森、澄んだ水、そして冬の銀世界などの恵まれた自然環境を生かした“里”(恵みの森)を広く人々に提供することによって、ゆとりある未来へ向けての人間性の回復と新たな文化の育成に寄与することを目標としている。 ここでは、人々が自然とのふれあいを求めて奥山へ向かう、その流れを“里”で受けとめ、恵みの“天”に学び、感性を呼びさます“地”に遊び、そして“人”と集うことによって人と自然と文化が融合する“環境”を創り出そうとするもの。
基本方針	1) 恵まれた自然資源の保全と活用 2) 多様なレクリエーション需要への対応 3) 通.利用を可能に 4) 古き文化の継承と新しき文化の育み 5) 地域社会との交流を深め地域に貢献

### ■施設

健康ゾーン	緑の千畳敷	木製遊具※	ローラーすべり台やターザンロープ、ころりん城など、26種類の大型アスレチック遊具がある。
		ふわふわドーム※	白い山型の巨大なトランポリンで、とんだり跳ねたりすべったり、思いっきり遊べる。
		緑の千畳敷	ウェルカムゲートから入って正面にある、直径300mの大きな芝生の広場。1周1kmの円周路があり、大ケヤキがシンボル。
	越の池	音楽噴水※	30分毎に異なる音楽に合わせて噴水が上がり、音と水の競演が楽しめる。
		水遊び広場※	ウォーターマシンガンやウォーターステップなど12種類の水遊具がある。(利用時期:5~9月頃)
		越の池レストハウス※	音楽噴水を見ながら食事やスイーツが楽しめる。

	フォリーの丘	展望台※	標高230mにある展望台からは、越後平野や信野川など、360度の大自然が広がる。(冬期はトイレのみ利用可能)
		天・地・人のフォリー	フォリーの丘の頂上にある建物で、塔の高さは17.5m。カリヨン(鐘)や自動販売機、トイレがある。
		雪割草群生地	雪解けとともに咲き、“春の妖精”とも呼ばれる雪割草。春の訪れを告げる雪割草の群生地は自然探勝路の途中にあり、毎年1万株ずつ植栽して数を増やしている。
		ラベンダー園	初夏、ラベンダーが一面に咲く風景と、雄大なフォリーの丘が一体となった美しい景観が、爽やかな香りとともに楽しめる。
	ふれあいの森		花や葉色を楽しめる宿根草・多年草と、樹木とが一体となった「林床・林縁花壇」が、四季折々の表情を見せる。
	入口広場	花と緑の館	波打った屋根が特徴の、開放感あるガラス張りの建物。館内では、クラフト教室や展示、ステージショーなども開催。
		暖の館	シャワールーム付きの更衣室や乾燥室などがある。ポルダリングウォールのほか、冬期には屋内遊具も楽しめる。
		香りのばら園	6種類の香りのタイプ別に植えられた「香りのエリア」や、宿根草類とばらとの調和が美しい「ばらと草花のエリア」など7つのエリアがある。
		花の丘	3,000㎡の丘一面に、春はチューリップ、秋はコスモスが咲き誇ります。丘のふもとから見上げたり、頂上から見渡したり、観る角度によって花の表情が異なる風景を楽しめる。
	自然探勝路		健康ゾーンを囲む丘陵の樹林内にある約3kmの散策路。四季折々の自然を楽しめる。冬期間は土日祝日限定でスノーシューコースとして利用できる。
里山フィールドミュージアム	越の里山館※	明治初期に建築され中越地震にも耐えた旧山古志地域の古民家の部材を活用して建てられた。里山の暮らしや養蚕、織物等について展示している。	
	里山交流館えちごにあん※	里山の旬の情報を発信する拠点施設。水辺の生きものの水槽や昆虫標本の展示のほか、休憩スペースや自由工作コーナー、芝ソリゲレンデもある。	
	古民家※	雪国越後のかや葺民家。長岡市寺島町にあった江戸時代後期に建てられた民家を復元している。前には水田や畑もあり、毎年、無農薬有機栽培の“ころりん米”などを育てている。	



里山体験工房かたくり※	昔ながらのかまどや調理台などを備え、里山の食文化や草木染めなどの体験プログラムを開催している施設。
カタクリ大群落※	春を待ちわびたかのように、雪が解けた里山の斜面約2haに、100万株のカタクリが開花する。

※冬期休止



■ 園内図



<入園料>

	一般	団体 小学生以上の方 20名様以上	年間・全国共通 入園パスポート 購入日より1年間 有効	2日間通し券
大人 (15歳以上)	450円	290円	2,800円	500円
こども (小・中学生)	無料	無料	無料	無料
シルバー (65歳以上)	210円	210円	1,300円	250円

※ホワイトシーズンは入園料・駐車料・ロープリフト使用料が無料

<駐車場>

	料金	入園パスポート 提示割引	駐車パスポート (入園パスポートとセット販売) 購入日より1年間有効	駐車台数※
大型車	1,030円	—	—	9台
普通車	310円	260円	1,030円	正面口:1,620台
				里山口:55台
				身障者用 正面口:44台
二輪車	100円	80円	—	里山口:4台 24台

■管理

利用者数	550,179人(H27)
マスコミ報道等件数	671件(H28)
ホームページのアクセス数	612,530件(H28)

<ボランティア>

<H29 重点管理項目>

植物管理

- ・ボランティアによる協力のもと、里山の自然環境を楽しみ学べるフィールドとして、間伐や下草刈りなどの適正な樹林管理を行っていくことにより、生物多様性の保全にも資する健全な里山を維持し活用する。

## 地域連携

---

- ・地元の近隣施設などとの共同イベントの開催や地元行政と協働した取組みの展開により地域連携を強化する。
- ・また、新潟県内からの花苗の供給や長岡野菜など地場製品のPRを行い、地産地消活動にも貢献する。
- ・NPOやボランティアとのパートナーシップによる公園づくりを進めるとともに、園内の自然や里山文化などを来園者に分かりやすく解説できる自然観察インストラクターの育成を行う。
- ・また、ボランティア活動の活性化のための取組みを、積極的に行う。

## 植物管理

---

- ・里山フィールドミュージアム未供用区域の整備では、広場施設、便益施設、植栽等の整備を推進する。
- ・またあそびの里（森林区域）では、園路等の基盤整備および森林遊具の整備を実施する。
- ・これらの整備により、「雄大な眺望を楽しめる大草原」や「森の遊び場」等の新たな魅力を里山フィールドミュージアムに付加し、多様な利用者層に魅力を提供する。
- ・あそびの里～森のめぐみの里間を結ぶ幹線園路について、未整備区間の整備を実施する。
- ・また今後の追加開園に向け、かわべの里より順次、林床整備による休憩・展望スポットの設置、森林観察ルート・川遊び体験ルートの整備などを推進する。
- ・越の池の漏水対策や音楽噴水のシステム更新など、既存施設の再整備を実施して魅力の維持を図る。
- ・フォリーの丘周辺一帯における花修景施設等の再整備、暖の館内部のリフォーム、健康機能を取り入れた大人も楽しめる遊具へのリニューアルなど、最新の利用者ニーズにマッチした施設更新を行い、魅力の向上を図る。
- ・里山フィールドミュージアムでは利用効果の高いカタクリ大群落周辺の園路について、案内標識の拡充等により利用者の安全性と快適性の向上を図るとともに、利用禁止となっている箇所や利用頻度の低い細園路の廃止・統合を行う。
- ・併せてその他の林床植物の群生地やトレイルランニングコースの延伸によって魅力を付加し、利用の促進を図る。
- ・緑の千畳敷及び水遊び広場など、日陰を提供する休憩施設が不足しているエリアでは、パラソルやタープ等のレンタルサービスを行い、日陰空間を提供します。また自然探勝路など、座って休める場所の不足が指摘されているエリアを中心に、ベンチの増設を行う。
- ・繁忙期に不満が多い箇所でのトイレ増設や、和式トイレから洋式トイレへの改修、授乳室の増設などにより利用者サービスの向上を図る。
- ・駐車場の再整備により、利用のしやすさと不足する駐車容量の拡大を図る。
- ・混雑時の不満を解消する適切な誘導対応や、清潔な施設維持、快適な広場空間の提供などのサービス向上に努める。

- ・園内のサイン表記等の見直しにより、利用しやすさの向上を図るとともに、サインの多言語化や、Wi-Fi 環境の整備を実施し、外国人利用者へのサービスも提供していく。
- ・園内を安全に利用していただくために遊具等の点検等を行い、利用者の安全を確保する。
- ・また、日常点検を基に適切な補修を行い、施設の長寿命化を図る。
- ・引き続き、新たに整備する区域においても、雨水の利用や、太陽光発電などエコエネルギーの活用による光熱費の節減を行う。
- ・また、未開園区域で発生した伐採木をチップ化し園路等に使用するなど維持費の縮減に取り組む。

## 環境保全

---

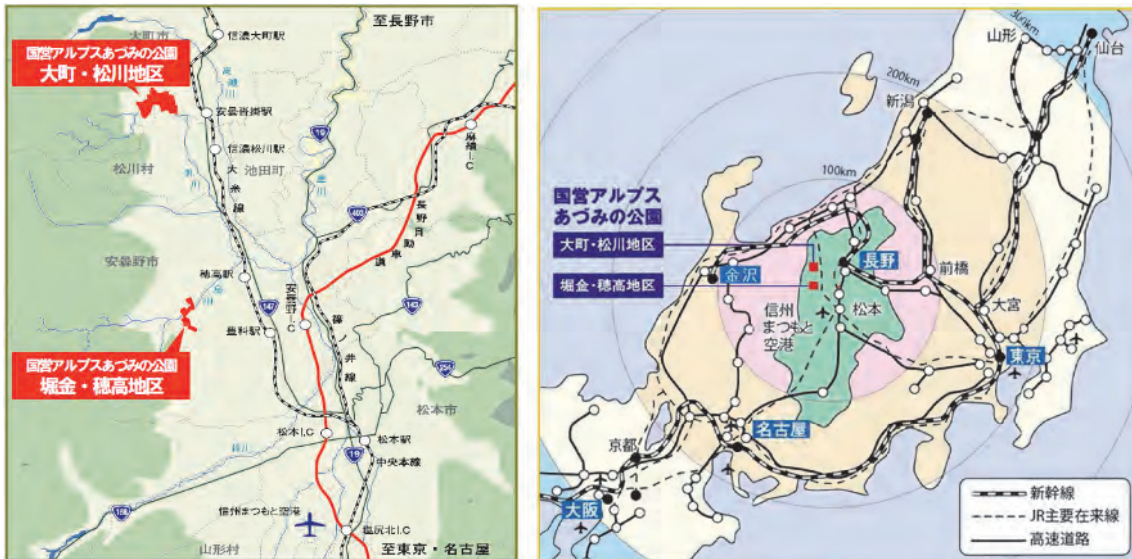
- ・ボランティア等との協働活動により、里山として自然環境に対する適度の管理作業を推進し、地域固有の生物生息環境の保全を図る。
- ・園内の維持管理作業により発生する剪定枝、間伐材などをリサイクルし、園内で再利用することにより、環境に配慮した公園管理費や維持管理費の縮減が可能になる。
- ・また、長寿命化計画に基づく、計画的な補修・更新を推進することで、トータルコストが縮減される。

#### ⑭ 国営アルプスあづみの公園

国営アルプスあづみの公園は、長野県北西部の安曇野地域に位置し、堀金・穂高地区(100ha)と大町・松川地区(253ha)の2地区(合計353ha)からなる国営公園。長野県内をはじめ、広く三大都市圏の人々の多様なレクリエーションニーズに対応することを目的とし、新たな余暇時代のライフスタイルを実現する拠点として自然や地域の文化とのふれあいなど幅広い魅力ある活動空間を提供している。

■区分		イ	(設置目的)	—
■所在地		長野県安曇野市 (堀金・穂高地区)		長野県大町市、北安曇郡松川村 (大町・松川地区)
■面積	計画面積	353ha		
	開園面積	100ha		253ha

#### ■ 広域図



#### ■ 年表

H2(1990).11.19	都市計画決定(約 356ha)
H3(1991).2.20	都市計画事業承認(約 253ha)
H4(1992).2.5	用地買収着手
H4(1992).5.12	都市公園を設置すべき区域の告示
H8(1996).3.21	都市計画事業承認区域の追加(約 100ha)
H10(1998).10.22	起工式
H16(2004).7.24	堀金・穂高地区一部開園
H19(2007).11.8	都市計画変更(大町市)
H21(2009).7.18	大町・松川地区一部開園

H25(2013).9.26	大町・松川地区一部開園
H26(2014).3.27	都市計画変更(約 356ha→約 348ha)
H26(2014).4.26	堀金・穂高地区一部開園
H27(2015).3.12	都市計画変更(約 348ha→約 353ha)
H28(2016).6.18	全園開園

### ■コンセプト

テーマ	
理念	自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現
基本方針	「自然環境の保全」「広域レクリエーション」「景・文化の保全と創出」「交流・地域活性化」「情報発信」「参加

### ■施設

堀金・穂高地区	田園文化ゾーン	ガイドセンター	安曇野の自然・文化・観光・産業など、さまざまな地域情報を紹介している。
		あづみの学校	環境共生時代を担う人材の支援・育成を図る拠点施設。
		段々花畑	常念岳を背景に、安曇野を彩る四季折々の美しい花々が楽しめる。
		段々原っぱ	常念岳を望む段々原っぱではピクニックやスポーツが楽しめる。
		マシュマロドーム	空気であくらませた膜をトランポリンのように飛び跳ねて遊ぶ人気の遊具。
		古墳の森	北安曇郡松川村から安曇野市堀金の山麓に点在する穂高古墳群の一部である「E-6号・7号墳」のある森。
		冒険の森	木々の間にロープ等を張り、ロープ渡りやブランコ、ハンモックなど冒険心をかき立てる遊びができる森。
		竜の広場	公園整備で発生した巨石を、安曇野民話の「泉小太郎」に登場する「犀竜」の背骨に見立てて並べた広場。
		野原	大玉遊びやディスクゴルフ、サイバーホイールが楽しめる。
		こどもの森	安曇野の民話である「八面大王」「デーラボッチャ」「泉小太郎」をモチーフした、7基の木製遊具や小さな丘など「アスレチック」を楽しめる森。
		溪流広場	常念岳を源流に持つ「烏川」に面した親水広場で、自然観察や水遊びのフィールドとして、公園主催のイベント開催時などに利用可能。
		石切跡の小径	江戸時代から建設材料として巨石を切り出した跡がそのままの形で残る花崗岩が点在する箇所 <small>の</small> 散策路。
		野の休憩所、水辺の休憩所、円形ステージ、池、レストランあづみの、展望テラス、須砂渡口ゲート、穂高口ゲート、烏川吊橋	

	里山文化ゾーン	堀金口	建物は、安曇野に伝わる民家の形式「本棟造り」を特徴とし、里山で育まれた文化・風習の体験学習や自然観察会などの拠点になる。
		サンクチュアリ	全国でも希少な蝶・オオルリシジミが生息しており、昔から自生している動植物を保護育成する場。
		古田	機械に頼らない昔ながらの農作業体験ができる。
		展望広場、棚田、農家風あづまや、水車小屋、岩原口	
大町・松川地区	センターゾーン	インフォメーションセンター、レンタル棟、デイキャンプ場、休憩棟レストラン、空中回廊、あづみの苑地	多くの人々がアルプス・安曇野の豊かな自然環境に楽しみながらふれあうことによって、新しい出会いや発見、感動を得て、多様な自然体験交流を導く起点となるゾーン。
	保全ゾーン	森のゲート、いきものの森	多様な環境と多くの生き物を育む北アルプスに続く入口であり、豊かな生き物の生息環境となっている森林を保全しながら、よりよい環境に育て上げていくゾーン。
	林間レクリエーションゾーン	そまびとの森・そまびとの家、森の体験舎、れき原の花畑、大草原の家、アルプス大草原・広場、林間アスレチック、彩の森	北アルプス山麓の雄大な自然を求めて訪れる多くの来訪者が、自然の中で気軽に憩い安らぐことができるゾーン。
	溪流レクリエーションゾーン	河畔広場、溪流ピクニック広場	北アルプスの 3000m級の山々から流れ出る清冽な水を育む溪流や、生活に密着した農業用水そのものを活かしながら、水辺の魅力と楽しみを満喫できる空間を提供するゾーン。
	自然体験ゾーン	スポーツと遊びの森エリア（マウンテンバイクパーク）、河畔探勝エリア、リフレッシュの森・溪流エリア、川遊び・乳川河原エリア、みんなの森づくりエリア	北アルプスの山々から流れ出る清冽な溪流や、そこに育まれた森林の魅力と楽しみを満喫できるフィールド。水辺での楽しみ、森のなかでのスポーツや遊び等様々な体験プログラムを提供し、環境を保全しながらより本物の自然に近づける人材育成に貢献するゾーン。





■園内図









<入園料>

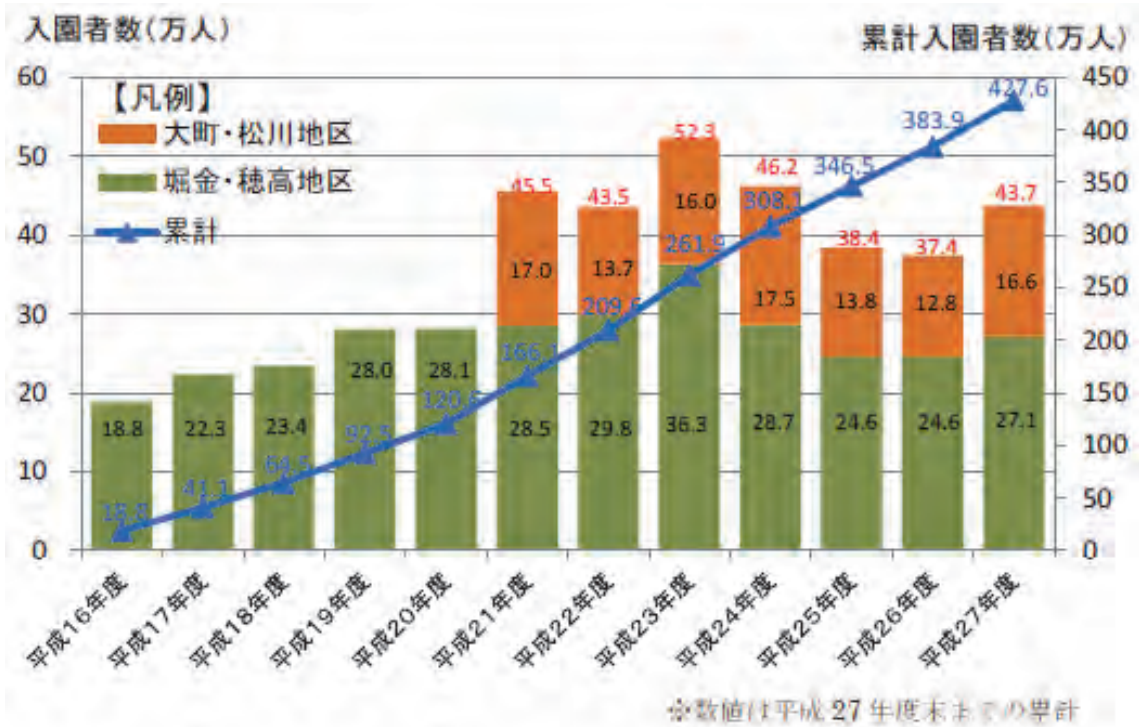
	一般	団体	年間パスポート (発行日より1年間有効)
大人(15歳以上)	410円	290円	4,100円
小人(小中学生)	80円	50円	800円
シルバー(65歳以上)	210円	210円	2,100円
幼児	無料		

<駐車場>

	料金	普通車	大型バス	身障者専用
中央口	無料	約700台	11台	7台
穂高口		約350台	6台	8台

■管理

利用者数	437,000人(H27)
マスコミ報道等件数	1,827件(H26)
ホームページのアクセス数	645,721件(H26)



<ボランティア>

公園ボランティア名	活動内容	活動地区	登録者数
公園パートナーの会	活動分野 ①社会:地域語り部、歴史ガイド、展示等 ②理科:理科ガイド、環境学習等 ③芸術:芸術クラフト等 ④そばグループ:そば打ち体験等	堀金・穂高地区	34名
ステンドグラス同好会	活動分野 ①ステンドグラス作り体験	堀金・穂高地区	5名
みのむしの会	活動分野 ①藁細工体験	堀金・穂高地区	6名
クラフトゲート匠の杜	活動分野 ①天蚕工芸人材育成 ②木工芸人材育成	堀金・穂高地区	12名
岩原の自然と文化を 守り育てる会	活動分野 ①田んぼの体験	堀金・穂高地区	-
公園サポーターの会	活動分野 ①クラフトグループ:クラフト体験等 ②山の恵み・食グループ:食体験等 ③自然環境学習グループ:自然観察ガイド等 ④炭グループ:炭作り体験	大町・松川地区	33名
安曇野の自然と文化 を考える会	①茶道の実演	堀金・穂高地区	-

※平成27年4月1日現在

## <H29 重点管理項目>

### 植物管理

---

- ・自然地形の空間を活かし、スケール感ある面単位の花修景による四季折々の開花リレーを実施
- ・雪氷等を活かした冬季の効果的な演出・集客と芸術性ある空間づくり
- ・花修景や遊具の充実要望への対応（2地区の特性を活かした開花リレー、繁忙期のアクティビティエリア増設）

### 地域連携

---

- ・里山文化ゾーン（堀金・穂高地区）における地元住民・市民団体等と連携した里の環境管理・文化継承プログラム、農産物栽培・収穫体験・収穫祭等の実施
- ・地域の特産品を使用するなどサービスの改善・充実（特産品活用、インフォメーションセンターなどの多面的活用）
- ・多様な立場や世代からの参加を幅広く取り入れた運営維持管理体制の充実
- ・全園開園に伴い新たなプログラム開発として地元市民の協力者の継続的な確保、専門技能や技術を有する協力者の確保、育成
- ・あづみの公園ボランティアとの協働等の継続、次世代育成、人員拡充
- ・地域の市民団体等の専門的技術、ノウハウの有効活用、特色有る取り組みとの連携
- ・公園パートナー、サポーター以外の参加型ボランティアの充実  
（里山文化継承、野外アクティビティ、花・野草、森林管理等に「楽しみを得ながら維持管理に協力いただける市民」の協力者を確保）
- ・広大な環境管理等の面での企業等との連携協力（とくに植樹、花修景等）の模索
- ・H31 に開催される全国都市緑化信州フェアにおける連携
- ・里山文化ゾーンにおける棚田のり面を活用した遠景からの風景としてのみどころづくり（地元団体や企業と連携した花木植栽・育成等）
- ・企業団体等の研修農園としての活用

### 施設管理

---

- 施設の安全確保と公園施設長命化計画等に基づく施設の修繕・更新
  - ・情報通信機器、木製施設等、アセットマネジメントの視点からの暫時改修、更新を計画的に実施し、単年度の維持・更新コストを平準化
  - ・利用動向を踏まえ陳腐化対策を重点的に検討
  - ・建築物、橋梁施設の定期的な安全点検と補修（建築物、空中回廊等）
  - ・頻繁に利用される遊具、ベンチ、木橋等の継続的な安全点検と補修
- ユニバーサルデザインの観点から施設や案内サービスの充実
  - ・インバウンドに向けた対策（Wi-Fi 環境整備、多言語サイン、案内ツールの充実等）
  - ・わかりやすい園内案内への改善

## 環境保全

---

- ・自然体験ゾーン（大町・松川地区）における森林団体等と連携した森の管理、技術継承に関するプログラムや研修体験機会の創出
- ・ツキノワグマとの偶発的遭遇の回避や自然の中での天候急変時の情報伝達等のインフラの機能強化、緊急時施設の充実
- ・ツキノワグマ等の大型野生動物の行動把握と安全管理への反映
- ・希少生物のモニタリングと調査研究の継続による生息環境の保全（オオルリシジミの繁殖環境の拡大と大学との協同による保全の実施等）
- ・開園以来、昆虫類、植物、猛禽類、大型哺乳類の貴重生物のモニタリングと調査研究を継続し、貴重生物種の保全を推進。
- ・ツキノワグマの行動に関するモニタリング調査を継続するとともに、園内巡視作業の一環としてツキノワグマの行動を把握。屋外体験プログラムや河畔等ではスタッフの指導や安全管理体制を充実。
- ・信州大学が公園内の調査によりオオルリシジミの天敵の1つであるメアカタマゴバチを特定
- ・体験プログラムにより、地域の子供達にオオルリシジミと触れ合える機会を提供
- ・天敵であるメアカタマゴバチの駆除に有効な「野焼き」を大学と協同で実施貴重種に関する調査・研究
- ・全国的に貴重なオオルリシジミの保護区(約1ha)を設置